

● 中学校の各教科における主な内容の改善

(1) 国語科

- ア 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、小学校で身に付けた技能に加え、社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導することとし、小学校で習得した能力の定着を図りながら、中学校段階にふさわしい文章や資料等を取り上げ、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたり、まとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。
- イ 古典の指導については、言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成することを重視する。
- ウ 漢字の指導については、社会生活や他教科等の学習における使用、読書活動の充実に資するため、常用漢字の大体を読めるようにするとともに、学年別漢字配当表に示された漢字を使い慣れるようにする。また、社会生活において確実に使えることを重視し、生徒の習得の実態に応じた指導を充実する。
- エ 書写の指導については、社会生活に役立つことを引き続き重視するとともに、文字文化に親しむようにするため、内容や指導の在り方の改善を図る。
- オ 敬語の指導については、社会生活において使用されている敬語の役割を知り、体系的な知識を得ながら、適切に使えるようにすることを引き続き重視する。
- カ 言葉のきまりの指導については、国語の特質を理解し、実際に文章を書いたり読んだりするときなどに役立つよう、指導の改善を図る。
- キ 読書の指導については、自分の読書生活を振り返り、日常的な読書をより豊かなものにすることや図書・資料の検索に図書館や情報機器を効果的に利用する仕方などを内容に位置付ける。
- ク 教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く読まれている古典や近代以降の代表的な作品を取り上げるようにする。

(2) 社会科

- ア 分野別配当時間数を増加した。具体的には、地理的分野 120 単位時間（15 単位時間増）、歴史的分野 130 単位時間（25 単位時間増）、公民的分野 100 単位時間（15 単位時間増）である。
- イ 世界の諸地域の地域的特色について主題を設けて学習する。
- ウ 日本の諸地域の地域的特色を動態地誌的な手法で学習する。
- エ 近現代の項目を二つに分割し、個別の歴史的事象の学習を通して、歴史の大きな流れを理解させるよう内容を構造化した。
- オ 持続可能な社会の形成という観点から課題追究学習を行う。
- カ 地図や資料の読み取り、解釈、論述、意見交換などの学習活動を重視する。
- キ 道徳教育との関連を図る。

(3) 数学

ア 数学的活動の充実

- ・数学的活動とは、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む数学にかかわりのある様々な営みである。「数学にかかわりのある様々な営み」として重視しているのは、数や図形の性質などを見いだす活動、数学を利用する活動及び数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動である。生徒が数学の学習に主体的に取り組むことができるようになるためには、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させることが大切であり、そのためには、数学的活動を通して指導することが大切である。

イ 事象を数理的に考察し表現する能力を高めること

- ・事象を考察することは、日常生活や社会における事象と数学の世界における事象を対象とするものである。それぞれの特性をとらえ、事象を数理的に考察する能力を高めるようにすることが大切である。事象を数理的に考察する過程やその成果についての認識は、表現することによって深められる。新たに「表現する能力を高めること」と示すことで、数や図形の性質などを的確に表したり、根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、自分の思いや考えを伝え合い、それらを共有したり質的に高めたりすることが重要である。

ウ 活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てること

- ・数学を活用しようとする態度を育てることは、数学の学習に主体的に取り組むことにつながる。新たに「活用して考えたり判断したりしようとする態度」と示すことで、数学を活用することの趣旨を明らかにし、生徒が数学を活用して考えたり判断したりする機会を設け、その必要性や有用性を実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

エ 領域ごとの改善内容

- ・「数と式」の領域では、文字を用いて一般的に考えることの必要性やよさについて理解を深めたり、身の回りの数量やその関係を数や文字を用いた式で表現したり、能率的処理したり、式の意味を積極的に読み取り自分なりに説明したりすることを重視する。
- ・「図形」の領域では、体験に基づく実感的な理解を基に、身の回りにあるものを図形としてとらえてその性質や関係などを明らかにすることや、図形の性質などを根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、その説明から新たな性質や関係を読み取ったりすることを重視する。
- ・「関数」の領域では、身の回りで起こることを関数としてとらえ、表、式、グラフなどを用いて変化や対応の様子を調べてその特徴を説明したり、表、式、グラフなどから新たな関係や特徴を読み取って、それを具体的な場面で解釈したりすることを重視する。
- ・「資料の活用」の領域では、資料に基づいて集団の傾向や特徴をとらえ、それを基に判断することを重視する。

(4) 理科

- ア 基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、科学の基本的な見方や概念（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）を柱に、小・中学校を通じた内容の一貫性を重視する。
- イ 国際的な通用性、内容の系統性の確保等の観点から、必要な指導内容を充実させる。（「イオン」「遺伝の規則性」「進化」等）
- ウ 科学的な思考力・表現力等の育成の観点から、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動等を充実させる。
- エ 科学を学ぶことの意義や有用性の実感及び科学への関心を高める観点から、日常生活や社会

との関連を重視し改善する。

(5) 音楽

ア 表現領域（「歌唱」「器楽」「創作」の三分野）、鑑賞領域及び〔共通事項〕で内容を構成する。

イ 「創作」については、短い旋律をつくったり、音素材を選びまとまりを工夫してつくったりするなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する。

ウ 鑑賞領域については、音楽に関する言葉などを用いながら、音楽に対して根拠をもって自分なりに批評することのできる力の育成を図る。

エ 和楽器については、簡単な曲の表現を通して伝統音楽のよさを一層味わうとともに、伝統的な歌唱の指導も重視する。

オ 合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視する。

カ 中学校の目標に、『音楽文化についての理解を深める』ことを付記した。

(6) 美術

ア 創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。

イ 子供の発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容の関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目など通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。

ウ 創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。

エ よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評しあったりするなど、鑑賞の指導を重視する。

オ 美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。

(7) 保健体育科

ア 小学校高学年からの接続及び発達の段階のまとまりを踏まえ、体育分野として示していた目標及び内容を「第1学年及び第2学年」と「第3学年」に分けて示すこととする。

イ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する観点から、各領域における身に付けさせたい具体的な内容を明確に示すとともに「体づくり運動」、体育理論に関する領域以外のすべての領域は、第1学年及び第2学年のいずれかの学年で取り上げ指導することもできるようにする。

ウ 「体づくり運動」については、その他の領域においても、体力の向上を図ることができるように工夫して指導する。

エ 知識に関する領域については、発達の段階を踏まえて指導内容を明確に示し、取り扱う時間数の目安を示すこととする。

オ 保健分野については、個人生活における健康・安全に関する内容を重視する観点から、二次

災害によって生じる傷害, 医薬品に関する内容について取り上げるなど, 指導内容を改善する。
また, 小学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう健康の概念や課題に関する内容を明確にし, 知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。

(8) 技術・家庭（技術分野）

- ア 接続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し, 技術と社会・環境とのかかわり, エネルギー, 静物に関する内容の改善・充実を図る。
- イ 情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し, 安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導の充実を図る。
- ウ 体験から, 知識と技術などを獲得し, 基本的な概念などの理解を深め, 実際に活用する能力と態度を育成するために, 実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。
- エ 知識と技術などを活用して, 学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために, 自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。
- オ 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ, 学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

(9) 技術・家庭（家庭分野）

- ア 小学校の内容との体系化を図り, 中学生としての自己の生活の自立を図る視点から, ①家族・家庭と子供の成長, ②食生活の自立, ③衣生活と住生活の自立, ④家庭生活と消費・環境に関する内容で構成し, すべての生徒に履修させる。その際, 家族・家庭や衣食住などの内容に生活の課題と実践に関する指導事項を設定し, 選択して履修させる。
- イ 社会の変化に対応するために,
 - ・家庭の機能を理解し, 人とよりよくかかわる能力の育成を目指した学習活動を一層の充実させる。幼児への理解を深め, 子供が育つ環境としての家族と家庭との役割に気付く。幼児との触れ合い体験などの学習活動を更に充実させる。
 - ・食生活の自立を目指し, 中学生の栄養と献立, 調理や食文化などに関する学習活動を一層充実させる。家庭生活と消費・環境に関する学習については, 他の内容との関連を明確にし, 中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を更に充実させる。
- ウ 家庭に関する教育を体系的に行う視点から, 小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容を設定するとともに, 他教科等との関連を明確にした連携を行う。

(10) 外国語科（英語）

- ア 小学校に外国語活動が導入され, 特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになったため, 中学校段階では, 「聞くこと」, 「話すこと」に加え, 「読むこと」, 「書くこと」を明示することで, 小学校における外国語活動ではぐくまれた素地の上に, これら4技能をバランス良く育成し, その後の生涯学習としての外国語学習の基礎を培う。
- イ 単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けさせるだけではなく, 実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養う。
- ウ 教材の題材や内容について, 外国語で発信しうる内容とする。
- エ 英語においては, 4技能を相互に関連付けて活用できるように, 文法指導と言語活動を一体的に行い, また, 指導すべき語数を充実させる。自らの考えなどを伝えるための「発信力」, 基

本的な語彙・文構造を活用する力，まとまりのある一貫した文章を書く力などの育成重視の観点から，4技能をバランス良く育成する。